

分析結果報告書〔2〕 2/4

<植種希釈水の調製-2>

市販品の植種菌製剤を用いた植種液の調製	
植種菌製剤の種類	1. BI-CHEM [®] BOD Seed 2. POLYSEED-US 3. その他 ()
使用した水	1. 希釈水 2. 水 3. その他 ()
植種菌剤 1 カプセルに対する水の量(mL)	() mL
植種菌剤混合液のぼっ気・攪はん等 注2)	1. ぼっ気又は攪はんを行った (時間) 2. その他の処理を行った () 3. 何も行わなかった
植種希釈水の調製までの時間	ぼっ気・攪はん等の処理後の時間 (時間)
植種希釈水の調製での留意点	()
植種液のBOD (mg/L) 注1)	1. () BOD-mg/L 2. 測定していない
植種希釈水への植種液の添加量(mL)	調製した植種希釈水 1000 mL あたりの植種液の量 () mL
植種希釈水の活性 注2)	1. 測定した () BOD-mg/L 2. 測定していない
活性を測定した年月日	()

注1) 測定値を記入する。

注2) JISに規定されているグルコース-グルタミン酸混合標準液 (BOD 220±10 mg/L) の測定値を記入する。

<試料の前処理>

前処理	1. 行わない 2. 行う その方法 ()
-----	---------------------------

<段階的な希釈試料の調製>

調製した希釈試料の段階の数	()
希釈の方法	1. 有栓形メスシリンダーを使用して希釈 2. メスフラスコ (全量フラスコ) を使用して希釈 3. 培養瓶で直接希釈 4. その他の方法 ()
希釈試料の調製に参考としたデータ	1. COD 2. TOC 3. その他 ()

<培養の方法>

培養瓶の容量 (mL) 注)	() mL
恒温 (20±1℃) の方法	1. 恒温器 (恒温室) 2. 恒温水槽 3. その他 ()

注) 異なった容量の瓶を用いた場合には、概略の容量を記入する (例えば、103、101、102 mL……で記入する。)

<溶存酸素 (DO) の測定>

測定方法	1. よう素滴定法 (ウインクラー・アジ化ナトリウム変法) 2. ミラー変法 3. 隔膜電極法 4. 光学式センサ法 5. その他 ()
3. 又は4. の方法を使用した場合について	
飽和溶存酸素の表の修正および気圧 (高度) の導入に係る補正等	1. 実施している その方法 () 2. 実施していない 3. その他 ()
塩分補正	1. 自動補正 2. 別途塩分を測定後、補正 3. 実施していない
試料測定前の機器校正	1. 空気校正 2. 空気飽和水校正 3. 亜硫酸ナトリウム溶液校正 4. 2及び3の両方 5. その他の方法 () 6. 実施していない

<試料の保存状況>

保存方法	1. 冷暗所保存 2. 保存しない (直ちに分析) 3. その他 ()
試料の保存処理	1. 行った その方法 () 2. 行っていない
保存温度 (℃)	約 ()℃

分析結果報告書〔2〕 3/4

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--

分析結果報告書〔2〕 4/4

硝化抑制を行った結果についてのみお答えください

<溶存酸素 (DO) の測定：滴定法 (よう素滴定法又はミラー変法) > (1 回目の結果を記入する)

希釈段階 注 1)	P 注 2)	15 分後の溶存酸素の測定		5 日後の溶存酸素の測定	
		試料量 (mL)	滴定量 (mL) 注 3)	試料量 (mL)	滴定量 (mL) 注 3)
1					
2					
3					
4					
5					

注 1) 前記<段階的な希釈試料の調製>で調製した段階的な希釈試料ごとに記入する (5 段階を超える場合には 5 段階まで記入する)

注 2) P は希釈試料中の試料の占める割合 (試料/希釈試料) を示す (P 値が大きい順に記入する)。例えば、3 段階希釈では、1 段階：P=0.04 (25 倍希釈)、2 段階：P=0.02 (50 倍希釈)、3 段階：P=0.01 (100 倍希釈) の順のように記入する。

注 3) よう素滴定法では 25 mmol/L チオ硫酸ナトリウム溶液の滴定量 (mL)、ミラー変法では硫酸アンモニウム鉄 (II) 溶液 (硫酸 5mL を水 100 mL に加え、これに硫酸アンモニウム鉄 (II) 六水和物 5.4g を溶かし水を加えて 1L としたもの) の滴定量 (mL) を記入する。

<測定記録 (1 回目) >

希釈段階 注 1)	P 注 2)	溶存酸素 (mg/L)		溶存酸素の 消費率 (%) 注 3)	BOD の値 (mg/L) 注 4)
		D1 (15 分後の 溶存酸素)	D2 (5 日後の 溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

<測定記録 (2 回目) >

希釈段階 注 1)	P 注 2)	溶存酸素 (mg/L)		溶存酸素の 消費率 (%) 注 3)	BOD の値 (mg/L) 注 4)
		D1 (15 分後の 溶存酸素)	D2 (5 日後の 溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

<測定記録 (3 回目) >

希釈段階 注 1)	P 注 2)	溶存酸素 (mg/L)		溶存酸素の 消費率 (%) 注 3)	BOD の値 (mg/L) 注 4)
		D1 (15 分後の 溶存酸素)	D2 (5 日後の 溶存酸素)		
1					
2					
3					
4					
5					

注 1) 前記<段階的な希釈試料の調製>で調製した段階的な希釈試料ごとに記入する (5 段階を超える場合には 5 段階まで記入する)。

注 2) P は希釈試料中の試料の占める割合 (試料/希釈試料) を示す (P 値が大きい順に記入する)。例えば、3 段階希釈では、1 段階：P=0.04 (25 倍希釈)、2 段階：P=0.02 (50 倍希釈)、3 段階：P=0.01 (100 倍希釈) の順のように記入する。

注 3) 溶存酸素の消費率 (%) は $(D1 - D2) / D1 \times 100$ として算出する。

注 4) BOD の算出に用いた希釈試料 (希釈段階) に該当する欄に値を記入し、他は空欄とする。